

3.3 アバタ状劣化部補修工事計画

【目的および工法】

アバタ状劣化部補修は、常用洪水吐部の構造安定性の確保および放流機能の確保を目的として実施する。常用洪水吐下流水路の劣化状況を図 3.7 に示す。減勢工側壁、副ダム等は今回の対象としない。

【工法選定】

補修工法は、表 3.3 に示す比較により、スチールファイバーコンクリート打替工法を採用する。

【施工時期】

出水状況による洪水吐の使用可能性、低温による施工性への影響等を総合して平成 17 年 11～12 月を予定している。

【施工次第】

アバタ状劣化部補修工事計画図を図 3.8 に示す。

